

RACE REPORT



Round.06 / 07 **FUJI**

第6戦／第7戦 富士スピードウェイ

2026年7月18日（土）

第6戦／第7戦予選・第6戦決勝

第6戦予選 天候：曇り／雨 路面：ウエット 第7戦予選 天候：曇り 路面：ウエット

第6戦決勝 天候：曇り／雨 路面：ドライ／ウエット

#38 阪口 晴南

第6戦予選：6番手 第7戦予選：8番手 第6戦決勝：7位

#39 大湯 都史樹

第6戦予選：2番手 第7戦予選：12番手 第6戦決勝：4位

2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、鈴鹿サーキットで行われた第3大会から約2ヶ月弱のインターバルで、富士スピードウェイでの第4大会を迎えた。6月末には富士で公式テストも行われ、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの阪口晴南と大湯都史

樹のふたりは、レースウィークではなかなか挑戦できないメニューもトライ。新たな気づきを得ていた。

迎えた第4大会は、4月の第3戦オートポリスの雨天順延分も含め3レースが行われる変則日程。雨となった7月17日（金）のフリー走行を経て、7月18日（土）に臨んだ。

Rd.6 QUALIFY 第6戦公式予選

7月18日(土) 8:15~9:00 天候:曇り/雨 路面:ウエット
ベストタイム #38 阪口晴南 1'32.688 / #39 大湯都史樹 1'32.429

7月17日(金)に行われた2回のフリー走行はウエットコンディションになってしまったこともあり、阪口晴南は「ふだんと雨が降る印象や、水の溜まり方も違うコンディションで、評価するのが難しかったです」と振り返る状況となったが、「パフォーマンスが足りないわけではない」と上々の手ごたえを語っていた。

一方、大湯は「コンディションも相まって、十分なデータは取れませんでした」と言いつつも、「ある程度の手ごたえは感じています」とフリー走行を振り返った。

そんな2回の走行を経て迎えた7月18日(土)は、午前8時15分から第6戦の公式予選が行われたが、曇り空で前日からの雨がわずかに残る路面。気温23度/路面温度26度という状況で、「こういうコンディションの方がいい」と大湯が語っていたとおりの天候となった。

その発言どおり、Q1のA組に大湯はまずは1分33秒906を記録し4番手につけ、Q2進出を果たしてみせる。続いてQ1のB組に出走した阪口は「コンディションを読み切ることが大事」と語っていたが、こちらもうまく路面の状況を読み切り、セッション間際に1分33秒553を記録。5番手でQ2に進出した。

続くQ2では少しずつ路面が乾くなか、大湯がチェッカー間際に1分32秒429にタイムアップ。ポールには僅差で届かなかったが、2番手につけてみせた。

一方の阪口は、1分32秒688というベストタイムを記録し、僅差のなかで6番手につけ第6戦の予選を終えた。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、難しいコンディションとなった第6戦で大湯が2番手、阪口が6番手と、2台がグリッド上位につけ午後の決勝を迎えることになった。



Rd.7 QUALIFY 第7戦公式予選

7月18日(土) 10:35~11:20 天候:曇り 路面:ウエット
ベストタイム #38 阪口晴南 1'23.635 / #39 大湯都史樹 1'24.197

この日は第6戦の公式予選終了から約1時間半のインターバルで、第7戦の公式予選が行われた。この間に富士スピードウェイは雨が上がり、ところどころ濡れた部分は残るものの、気温23度/路面温度30度というドライコンディションに変化していた。

第6戦同様、Q1のA組に出走した大湯は、残り3分というタイミングで#3 ルーク・ブラウニングがストップしたことで赤旗中断となる難しい展開のなか、1分24秒197というタイムを記録。6番手につけQ1を突破する。



続くB組では、阪口がアタックし、こちらは1分23秒460を記録。4番手でQ2進出を果たした。

第7戦でも SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台がQ2進出を果たしたが、そのQ2では阪口が1分23秒635を記録し8番手につけるも、大湯はアタック周で記録した1分23秒683が走路外走行と判定されてしまい、タイムは抹消。12番手となった。

「フリー走行から順位としてはすごく安定しているので、その点は良いことだと思っています。第6戦はウエットで、上位陣が苦戦するなかで2台とも速かったのは、チームとしても良かったです」と阪口。

「フリー走行はドライで走れていないなかで、第7戦のQ1はフィーリングが良かったのですが、Q2に向けてアジャストが難しかったです」

一方大湯は「走路外走行がなくとも、良くて5~6番手くらいだったと思います。良かったところもあったのですが、パフォーマンスを上げ切れていませんね」と語った。

「ミスをしてもカバーしきれない状況ではないので、その点は上位陣とは差があります」と語る大湯、そして阪口は午後の第6戦決勝に向けて準備を進めていった。

Rd.6 RACE 第6戦決勝

7月18日(土) 16:15~17:19 天候:曇り/雨 路面:ドライ/ウェット
ベストタイム #38 阪口晴南 1'25.070 (19L) / #39 大湯都史樹 1'25.433 (29L)

第7戦の公式予選の後も、富士スピードウェイは曇天が続き、午後4時15分から行われた第6戦の決勝レースを前に、時折雨がパラついてきたものの気温25度/路面温度29度というドライコンディションでスタートの時を迎えた。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、大湯が2番手、阪口が6番手からスタートを切った。「2番手ですが、まわりはドライがあまり良くない顔ぶれが多いので、早めに抜いておきたい」と語っていた大湯は、スタート直後のGRコーナーでポールスタートの#19 ザック・オサリバンに襲いかかるも、オーバーテイクはならず。2番手でオープニングラップを終えた。

一方、6番手からスタートした阪口は「この週末の3レースのうち、この第6戦がいちばん勝つチャンスがあると思っています」と気合をもって臨んだが、スタートはうまく決めることができず、その後のGRコーナーへの位置取りでも順位を落としてしまう。1周目の阪口の順位は8番手。その後阪口は#28 小林利徠斗をかわすなど、スタートで落とした順位を挽回していった。

そんな決勝だが、スタートから6周が過ぎるころになると、部分的に雨が落ちてきた。この雨が小湯にとってはプラスとなり、一時はトップの#19 オサリバンの差を縮めるものの、雨が小康状態になり出すとペースが苦しくなってしまう。大湯は雨が止むと次第に#19 オサリバンとの差を広げられ、さらに後方からは阪口など上位陣をかわしてきた#5 牧野任祐、#6 太田格之進が接近してきた。

11周を過ぎ、ピットウインドウがオープンするも、雨が強くなる恐れもあり、なかなか上位陣はピットに向かうことができずにいた。そんな中、雨脚が弱まったと判断した阪口は、16周を終えピットインを行った。

一方、大湯は早めのピットインを希望していたが、ややコミュニケーションに手間取り22周でピットイン。ピットアウト後、一時は#5 牧野と競り合うシーンもあったが、4番手でレース終盤を迎えた。

阪口は早めのピットインが功を奏し5番手につけたが、6番手の#65 イゴール・オオムラ・フラガとのバトルを強いられた。終盤、GRコーナーで#65 オオムラ・フラガと競り合った際に、わずかに接触してしまうことに。その隙を突かれ、後方を走っていた#12 小出峻にも先行を許すことになった。

結果的に、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは大湯が4位、接触でホイールにダメージ負ったものの、阪口が7位でフィニッシュした。グリッドを考えれば順位を落としており、悔しい結果ではあるが、翌日の第3戦、第7戦に向けてドライ路面でのデータも得ることができた。

7月19日(日)はふたつのレースを戦う多忙な一日。チームは準備を進め、挽回を目指していく。

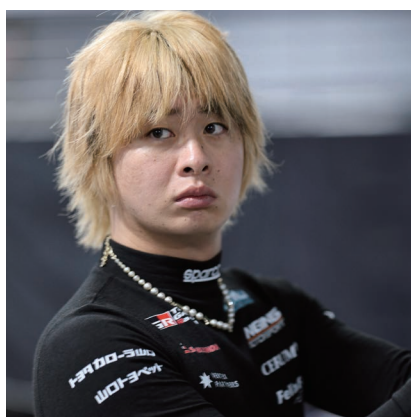


COMMENTS ドライバー／監督コメント



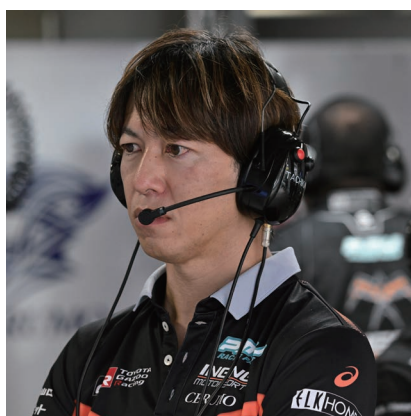
38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「スタートも、位置取りも悪く、順位を落としてしまいました。何が起きたのかはしっかり解析したいです。2台を抜き返すことができたのですが、レース序盤からあまりペースが良くなかったですね。その後雨も降り出したのですが、雨が止んだタイミングで早めのピットに入ることができたので、それがアンダーカットに繋がりました。ただ今季はずっとペースは良かったのに、富士ではやはりペースに苦しむことになりました。富士の夏のレースは前半戦の勢いのみでは通用しないことが分かったので、明日に向けてきちんと精査したいです。明日の第3戦、第7戦も悪くない位置からスタートできるので、しっかりと戦いたいと思っています」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「結果的には4位でしたが、チームとしてもクルマとしても課題が多いレースでした。トップは別格なスピードがありましたが、オサリバン選手の速さには驚かされましたね。序盤の雨には助けられるかとも思いましたが、その後は離される展開になってしまいました。パフォーマンス不足だったと思いますし、同じトヨタエンジン勢として1ランク以上ステップアップしなければと感じました。内容は悪いレースでしたが、展開として後方ともギャップがあったので4位で終えることができました。もちろん良いところもあったんですけどね。表彰台を狙えるレースで獲れなかったのは残念でしたが、明日は気持ちを切り替え、何かを見つけられるように頑張りたいと思います」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「第6戦については予選はウエットで、その中で2台ともに好調でした。特に大湯選手は2番手につけてくれましたし、阪口選手も6番手と良い位置につけることができました。ただ決勝では、予選から変わってドライになり、ペースがいまひとつ足りませんでしたね。予選の位置を活かし表彰台に立つことはできませんでしたが、2台がともに苦しいなかでもポイントを獲得してくれたことは前向きに捉えたいと思います。大湯選手も最大限の走りをみせてくれたと思いますし、阪口選手もスタートの遅れを取り戻してくれました。ともに明日に向けて課題ははっきりしたと思いますので、もう一段レベルを上げていきたいと思います。明日も応援よろしくお願いします！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第6戦富士スピードウェイ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'43.973	
2	19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'45.515	1.542
3	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'48.070	4.097
4	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'57.155	13.182
5	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'05.677	21.704
6	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'09.035	25.062
7	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'10.552	26.579
8	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'10.815	26.842
9	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'16.392	32.419
10	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'17.159	33.186
11	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'17.217	33.244
12	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'19.275	35.302
13	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'19.981	36.008
14	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'23.883	39.91
15	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'24.216	40.243
16	97	R. スタネック	ヒュンダイ Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'31.528	47.555
17	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'32.305	48.332
18	9	G. アレジ	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'37.078	53.105
19	28	小林利徳斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'37.834	53.861
20	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'45.294	1'01.321
21	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:00'48.420	1'04.447
22	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	40	59'49.939	1Lap
23	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	40	59'53.258	1Lap
24	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	40	1:00'58.765	1Lap

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	73
2	1	岩佐歩夢	38.5
3	14	福住仁嶺	35
4	38	阪口晴南	27
5	37	S. フェネストラズ	26.5
6	19	Z. オサリバン	25
7	39	大湯都史樹	23
8	3	L. ブラウニング	20
9	5	牧野任祐	19
10	36	坪井翔	18

チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	81
2	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	46
3	VANTELIN TEAM TOM'S	44.5
4	NTT docomo Business ROOKIE	32
5	TEAM MUGEN AUTOBACS	28
6	TEAM IMPUL	22
7	PONOS NAKAJIMA RACING	19.5
8	REALIZE KONDO RACING	19
9	DELIGHTWORKS RACING	16
10	ThreeBond Racing	11